



MMWINを活用した病診連携について

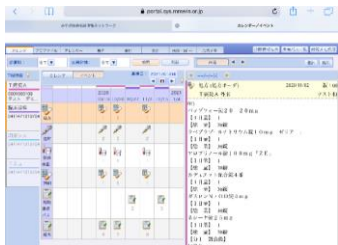


先日、サポートセンターにICカードを紛失したという1件の問い合わせがありました。お問い合わせされた医師に話を伺うと、紹介状に「あとは（残りは）MMWINで見て下さい」と書いてあり、慌てて探したが見当たらなかったとのこと。

患者さんの転院に際し、先行して透析施設でのMMWINを活用した情報連携が行われていますが、ここ最近では上述のような一般的な紹介/逆紹介に活用されるケースが増えてきております。さらには、紹介先から紹介元に対し、「MMWINで貴院の情報を参照したいのであらかじめ患者さんにMMWINの加入を案内してもらえませんか？」という話もあります。

このようなMMWINの活用方法を具体化しようという動きもあります。県北圏の基幹病院である大崎市民病院では、医師返書の中に対象者のMMWIN加入の有無を記載することが検討され始めています。これにより、MMWINに加入し、病院紐づけが行われている患者において、紹介元医療機関が大崎市民病院における紹介後の検査結果や診療内容を参照することが可能となります。*

コロナ禍において医療情報のデジタル化の遅れが指摘される昨今、「●月●日の検査結果を教えてくださいませんか?」、「もう少し鮮明な画像を送って下さい」といった電話や、ファックス送信、郵送に代わる情報伝達手段として今一度、MMWINの活用をご検討下さい。



画像参照イメージ



検査履歴参照イメージ

※情報の参照にあたっては患者本人による同意が必要です。



お知らせ

MMWIN事務局からのお知らせです。

2021年4月15日開催の臨時社員総会において、当協議会の監事に安藤健二郎氏（仙台市医師会会長）が選任、承認されました。

詳細につきましては、ホームページをご覧ください。



発行：一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会
〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目15番19号
【事務局】 TEL：022-395-6312 FAX：022-395-6313
E-mail：office@mmwin.or.jp URL：http://mmwin.or.jp/
【サポートセンター】 TEL：022-399-6880 E-mail：support@mmwin.or.jp



当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。

©2021 MMWIN

全医療・介護・福祉分野、職種が想いをひとつに「オールみやぎ体制」でみやぎをつなぎます



エムエムウイン
MMWIN 通信
みんなのみやぎネット NEWS

2021
6.25
vol. 65

発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

安全 迅速 正確 適切 な情報共有

東北大学病院 総合地域医療教育支援部（総合診療科・漢方内科）

特命教授 高山 真 先生



高山 真 先生

新型コロナウイルスに感染した軽症患者などの療養先である、軽症患者宿泊療養施設（ホテル）へ、週3回往診されている 高山 真 先生に、MMWINの活用状況についてお話を伺いました。

MMWINの活用について、軽症患者宿泊療養施設の診療で最も役に立っているのは、他医療機関で行われた胸部レントゲンやCT等の画像検査、採血結果を患者さんの同意のもとで確認できることです。患者さんを療養施設で経過観察するに際し、ホテル側で医療情報が得られないと、患者さんがどの程度悪いのかということが把握できないまま経過をみることになります。肺炎の有無や炎症反応の程度について、患者さんと病院側の同意を得た上でいち早く確認できることは安心であり、患者さんの状態を客観的に把握できるMMWINの情報はとても大事であると思います。

もう一つは、「比べる」ということです。PCR陽性のみで療養施設に入り、あとから発症する患者さんもいますが、採血、画像、心電図等、前のデータと比較しないと判定が難しいこともあり、MMWINで確認することがあります。新型コロナウイルス感染症の患者さんは血柱ができやすいといわれていますが実際の採血では結果が微妙なケースもあり、Dダイマーの数値が元々微妙に上昇していたかなど、これまでの経過と比較するためにも、他医療機関との情報共有は大事です。

また、服薬内容がわかるというのも非常に助かります。複数の投薬を受けている方もいますが、みなさんがお薬手帳を持参しているわけでもなく、何を内服しているのか十分に把握できないことも多々あります。このような場合に、かかりつけ医の処方内容を確認しています。患者情報があって新たな処方ができることで、有害事象、副作用を減らすことにもつながっています。



軽症患者宿泊療養施設の様子

患者さんのMMWIN加入同意については、患者さんご自身不安な気持ちで入所されており、症状がある方も多く、しっかり診てもらえるという思いからか、多くの患者さんから同意を得られています。

MMWINの参加施設でない場合等は、Faxや電話での問い合わせを行っており、Fax誤送信の懸念や電話問い合わせにすぐに対応できない等の課題がありますが、MMWINはそういったことをすべてクリアしており、しっかり個人情報も守られ、リアルタイムで安全に利用できるものだと思います。

宮城県内の医療機関にご協力をいただいて、患者さんが県内どこから来て情報も共有できるということは、患者さん、医師双方にとってメリットが多く、適正な医療につながると思います。震災やコロナ等に代表される自然災害においては、情報共有ができないことで患者さんの状況把握ができず、救える命が救えないという状況になりえます。その命をしっかり救えることに繋がるので、みんなで個人情報管理のもと、情報をシェアして効率よく適正な医療ができるという方に向かっていくといいと思います。MMWINは、そのひとつのツールであると思います。

新規参加施設紹介

iPadでスムーズな情報共有を目指す！

セントケア訪問看護ステーション仙台東 【仙台圏】宮城野区

MMWIN参加施設で初めて、初期構築がいない、スムーズな情報共有を可能にするiPadシステムを導入された「セントケア訪問看護ステーション仙台東」のMMWIN活用状況について、所長の木村浩子様にお話を伺いました。



所長 木村浩子様

MMWIN活用のメリット

- ・新規のお客様を受け入れする際、前医からの情報しかない為、MMWINを参照する事で、過去の既往歴・治療・手術歴や検査データなど、より細かい詳細を知ることが可能。
- ・状態変化に伴い救急搬送時や病院様へサマリーを至急作成することが多いため、MMWINを利用しポータル上の患者情報で入力することができる。また、MMWINに連携している施設であれば、省力化を図れるのではないかと。

今後の活用目標について

- ・現在連携している在宅緩和クリニックとの文書による情報共有（訪問看護計画書、報告書）をMMWINで代替したい。また、MMWIN上にアップできる環境が有効であれば、他訪問看護ステーションや居宅事業所とも作業の簡略化を図り、運用していきたい。

利用者様加入のお声掛けについて

- ・訪問看護初回契約時に患者様やご家族様へ「これからの治療や看護を行う上でご自身の病歴を把握して頂くことが非常に重要になってきます。そのため、情報をデータ管理できるカードを作りますか？」と説明している。

iPadの利用について

- ・現在、スタッフ全員が会社のiPadを所持しているため、MMWINiPadは、営業所に1台設置し、必要な時に参照している。



◆施設紹介◆

- ◆担当エリア：仙台市（若林区・宮城野区・青葉区）・多賀城市・利府町・塩釜市
- ◆サービス内容：・ALS ・癌終末期 ・人工肛門、人工膀胱 ・腹膜透析 ・テウオドーバ ・人工呼吸器 ・シュアフェザーによる化学療法・創傷ケア ・在宅がん医療総合診療算定受入可 等
- ◆スタッフの資格：・心理カウンセラー・リンパケアセラピスト ・保健師 ・呼吸療法士など
- ◆連携先：東北大学病院、東北医科薬科大学病院、仙台医療センター・東北労災病院・坂総合病院、仙台オープン病院、照井在宅緩和クリニック他 多数



「セントケア訪問看護ステーション仙台東」
スタッフのみなさん

MMWIN透析連携ネットワークに アイン薬局吉岡店 【仙台圏北部】大和町 薬局も参加しました

以前、MMWIN通信Vol.63で大崎市民病院様と吉岡まほろばクリニック様の透析連携による災害訓練を紹介しました。災害対応を強化したい吉岡まほろばクリニック様の強い要望により、アイン薬局吉岡店様がグループ薬局として初めて参加されました。今回薬剤師の山内琴美様にインタビューさせていただきました。



薬剤師 山内琴美様

【MMWINに参加するきっかけ】

元々、MMWINのシステムには興味を持っており、自身も患者登録をしておりました。2019年に門前の吉岡まほろばクリニック（透析室）より「災害時の緊急対応として調剤情報も確保しておきたいので是非MMWINに参加して欲しい」と打診され参加に至りました。導入するきっかけを貰い幸いでした。

【MMWINを導入した感想】

システムの操作研修を終え、患者の疾患名が明確になることや検査結果をもれなく確認できることが有用であると感じました。腎機能・肝機能・PT-INR等の確認も可能となり、薬剤投与量に関しても参考になるので活用できると思います。ただ、患者さんがMMWINカードを持っていないと情報閲覧が出来ない為、カードをさらに患者さんに啓蒙していく必要があると思いました。MMWIN自体の存在もあまり知られていないので認知させていかなければならないと思いました。現在、MMWIN閲覧に専用パソコンを使用していますが、現状ではパソコンを2台使用しなければならない為、投薬までに時間がかかってしまいます。紐付けまで完了したら電子薬歴上で患者情報を閲覧出来るようになることを希望します。

【MMWINへの要望】

患者さんの啓蒙活動について、MMWINの方に支援いただけるとカードを作ってくれる患者さんが増えると思うのでお願いしたいです。

アイン薬局吉岡店様のインタビューに加え、門前クリニックである吉岡まほろばクリニック臨床工学技士武田様よりコメントを頂戴しております。

～吉岡まほろばクリニック 臨床工学技士武田様のコメント～

当院では現在毎回の透析記録と、透析条件が変更する毎に患者情報をMMWINに更新していますが、定期内服薬については当院透析患者の処方を担当していただいているアイン薬局様が当時MMWINに参加していなかったためできませんでした。MMWINに当院の処方記録があることは災害時必要であると考え、失礼とは思いましたがMMWIN参加の必要性を説明し、参加していただけないかとメールさせていただきました。今回無理難題をお聞き入れ下さり、調剤連携が完成したことにより、今後MMWINを活用した災害時透析が一層安全に施行されることと思います。

～インタビューを終え～

門前クリニックから情報連携の要望により参加いただきましたが、透析連携以外のMMWINシステムをご理解頂き患者情報の閲覧に積極的に取り組んでくださっていると実感しました。またMMWINでは、アイン薬局吉岡店様のご要望にお応えし、患者啓蒙活動として6月より店舗内で患者加入活動を実施しております。参加いただいている施設様で啓蒙活動（ブース活動）のご要望がございましたら、事務局または担当営業までご連絡下さい。